

第五番札所 御誓願 眼病

釜滝薬師 かまたきやくし



住 紀美野町釜滝120
TEL 073-489-2830

今から千二百年前の昔、天長十二年（八三五）、天台山慈覚大師（円仁）がこの地にさしかかり、山下にある釜の淵の奇観「甌穴」の神秘に打たれ、身心の病氣平癒、特に目の守護仏として仏像を刻み安置されたのが、釜滝薬師のご本尊の薬師如来です。

創建当時は、現在の寺院の側にある小高い丘に草庵を結び、そこに本尊を安置していましたが、鎌倉時代の初め、日根野のシナという人の寄進で本堂を建立しました。
天正年間（一五七三～九一）、織田信長の焼き討ちにより本堂は焼失しましたが、快応和尚が再建を志し、十六年の艱難苦心の後、宝暦三年（一七五三）に本堂を再建し、現在に至っています。

御誓願の由来

慈覚大師が、特に目の守護仏として仏像を刻み安置されました。
その後、目が赤くなる流行り病いが広まっただが、誰言うとなく、釜滝の薬師様に帰依すれば必ず治るとの噂が広まりました。
以来、この仏様は目のお薬師様と崇められ信心されるようになりました。

歌 よにあるや くすりのいずみ
詠 かまがたき
御 あさひにうつるりゆうこうのになわ

第六番札所 御誓願 開運厄除

満福寺 まんぶくじ



住 紀美野町神野市場52
TEL 073-495-3210

満福寺は、宝亀元年（七七〇）、唐僧・為光上人により開基されました。
ご本尊十一面観世音菩薩は、聖徳太子作とも伝えられ、脇仏に四天王を配します。
弘法大師が高野山を開いた後、高野山の末寺にして高野の西を治めていました。
当時は約十七の堂塔で七堂伽藍を有し、隆盛をみていましたが、度重なる戦乱と災害により、多くの堂宇が焼失し、現在の佇まいとなっています。

旧暦初午の日には平安時代より伝わる大般若六百巻転読大法会、並びに一枚に一斗もの餅米を使った大餅投げが行われます。

御誓願の由来

観音様は、観世音菩薩とも観自在菩薩とも言われ、過去・現在・未来を自由に行き来できる、まるでタイムマシーンを持った仏様です。
一切衆生を監察して、無碍自在であるところから、特に運を開き、厄を除く「開運厄除」に靈験あらたかと言われています。

歌 むかしより ちかいはいまに
詠 かわらどう いちようの
御 そらにてらすつきかけ

第七番札所 御誓願 子安・安産

玉泉寺 ぎよくせんじ



住 紀美野町三尾川420
TEL 073-495-2824

玉泉寺は、明恵上人の開基とされます。
上人は、七百六十余年前、熊野詣で日高有田の里を経て高野山への巡錫の途中、当地に立ち寄り、上人自作の持念仏である薬師如来を草庵に安置。
以来、当寺は無病息災 諸願成就の寺とされています。

御誓願の由来

寺のそばに代々庄屋であった家があり、世継ぎが流産に終わる。それで、薬師如来に、ご加護をと、鰐口の布の緒にすがり一心に念じたところ、ばったり緒が切れ落ち、腹に絡んだ。ふとその緒が薬師の恵みと覚り持ち帰り腹帯としたところ、見事に玉のような子息を安産し、世継ぎとなったと謂われる。
この言い伝えから、薬師様の鰐口の布緒をお受けになる人は今なお絶えず、子安安産の名刹として今日に至っています。



歌 阿りがたや 子安の薬師の
詠 ごりやくお うけ志うぶ子の
御 おいたちぞよき

第八番札所 御誓願 抜苦・安心

惣福寺 そうふくじ



住 紀美野町田24
TEL 073-498-0431

惣福寺は、高野山と海南を結ぶ往来のおよそ中間の地にあり、宝亀元年（七七〇）道光上人の開基と伝えられています。
近郷の人々から大御堂とよばれている本堂は、その佇まい、スケールにおいて野上谷第一であり、神仏習合で隣には熊野神社があり、そのため、社寺境内は広々としているのも特徴です。

御誓願の由来

ご本尊は千住観世音菩薩で、この菩薩は千の慈愛の眼をもって常に私たちの生活のひとつひとつの生き方をご覧になっていると言われています。
そして千の手を差し伸べて我々の苦しみを取り除き、安らかな心で日々が過ごせるように見守って下さっているとされています。
本堂前に、和名「ムクロジ」という幹径約一メートルの大木があり、この木の中国名が「無患子」であることから、「心身を患わない」ことを祈願するこの寺の聖木としています。



歌 ありがたや 田の大御堂に
詠 ぬかずけば
御 抜苦安心 叶え下さる